# 市町連 MORIOKA
## 盛岡市町内会連合会広報

No.115
令和7年
2月号

◆特集◆
市町連
新年交賀会

年3回：7月・11月・2月発行

発行・編集
盛岡市町内会連合会
盛岡市若園町2－2
（盛岡市総合福祉センター）
TEL　623－4690
FAX　623－4699
印刷／杜陵高速印刷株式会社


## 令和7年 新年交賀会

令和７年新年交賀会が、盛岡市長はじめご来賓の方々と町内会長合わせて130名のご出席をいただき、１月15日（水）ホテルメトロポリタン盛岡において開催されました。

当日は、盛岡市動物公園ZOOMO園長の辻本恒徳氏を講師として招き、防犯防災交通安全部会主管による特別講演会「ZOOMOの活動から考えるクマとの共生」を併せて開催しました。

### 年頭のごあいさつ

会長 小枝指 好夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、本日は盛岡市動物公園ZOOMO（ズーモ）園長の辻本恒徳様をお招きし、安心・安全な市民生活の確保と野生生物との共生について、ご講演をいただきました。ありがとうございました。

皆様の町内会や子ども会行事として盛岡市動物公園ZOOMO見学もぜひご検討いただければと思います。

当連合会は昨年７月に無事、創立60周年記念式典を挙行するとともに、記念トークイベント及び祝賀会を盛大に開催することができました。ご支援・ご協力を賜りました皆様に改めて感謝申し上げます。

そして、会場には出来立てほやほやの創立60周年記念誌もご披露させていただいております。60周年事業実行委員会の皆様、そして各地区協議会様には大変ご苦労をおかけしました。誠にありがとうございました。

さて、当連合会は70周年、さらにその先の未来に向けて新たな一歩を踏み出しました。これまで以上に盛岡市をはじめ関係機関・団体の皆様と価値観や危機感を共有しながら、市勢の発展に寄与してまいりたいと存じております。皆様にはよろしくご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 来賓ご祝辞（要旨）

**【盛岡市長　内舘 茂 様】**

盛岡市町内会連合会の皆様におかれましては、明るく希望にあふれる新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、貴連合会の創立60周年となる記念すべき年でありました。この度発刊された創立60周年記念誌は、町内会活動のさらなる発展と、新たな歴史の幕開けにつながる大変素晴らしい内容でありました。

本市では、「盛岡が盛岡らしく在り続けるために、さまざまな主体が積極的にまちづくりに参画する〝市民協働〟を推進する」ことを基本理念とする「盛岡市地域づくり協働推進計画」に基づき、さまざまな施策に取り組んでおります。

今後も、より多くの市民の皆様の声を聴きながら、より優しく、より強い、地域経済が元気な盛岡を創り上げてまいります。

**【盛岡市議会議長　遠藤 政幸 様】**

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、貴連合会が昭和39年に発足して60周年の節目を迎えられた、まさに記念すべき年でした。

この間、盛岡市が、岩手県の政治・経済・文化の中心として着実な発展を続けてまいりましたことは、町内会の皆様方と行政が連携を深め、協働のまちづくりに取り組んでこられた賜であり、改めまして敬意と感謝を申し上げる次第です。

近年は、少子高齢化の進展や、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化などにより、地域課題が多様化・複雑化しております。

市議会におきましては、地域の皆様方の声をお聞きしながら、「住み良いまち盛岡」の実現のため、今後とも力を尽くしてまいりますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**【盛岡市社会福祉協議会会長　谷藤 裕明 様】**

皆様には、日頃より地域福祉の推進にご尽力賜り、そのご労苦に心より敬意を表する次第です。

昨年は１月の能登半島地震に始まり、８月には盛岡市でも豪雨で多くの被害を受けるなど、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。

地域社会においては、少子高齢化の進行とともにさまざまな課題が複合化、複雑化、深刻化する中にあって、地域づくり推進のため、その牽引役となってご尽力いただいております皆様方に改めてお礼を申し上げる次第です。

盛岡市社会福祉協議会では、第二期地域福祉活動計画に掲げる「人と人とがつながり　共に支え合うまちづくり」の実現のため、地域住民の皆様と手を取り合い、積極的に地域福祉活動を推進してまいりますので、一層のお力添えをお願いします。

新年交賀会
特別講演(要旨)

# 「ZOOMOの活動から考えるクマとの共生」

講師：盛岡市動物公園ZOOMO園長　辻本 恒徳 氏

自然豊かな岩山の南斜面を使って1989年に開園した盛岡市動物公園は、令和５年にリニューアルしました。

## ＊ZOOMOのコンセプト

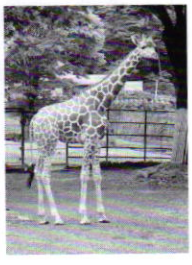
＜ランドスケープ・デザイン＞
岩山の景観を大切に
＜ワンワールド・ワンヘルス＞
人と動物と自然の健康のつながり
＜アニマル・ウェルフェア＞
家畜の健康は食の安全。展示動物が元気ならお客さんも元気

**★里山エリア**

37ヘクタールの広大なエリアで３分の２は森林。カモシカ、キツネ、タヌキなど街中にも出没する動物をじっくり観察できます。クマ２頭はとても愛嬌があり人気者で、ガラス越しに近くで見られるようにしました。

**★サバンナエリア～高原の牧場**

ゾウ、キリン、ライオン、サイ、シマウマなどを広大な景観の中でゆったり眺めていただけます。子どもたちがガラスにへばりついてライオンを見ているほか、アフリカゾウを近距離で見られるテラスやカンガルーヒルなどが人気です。また、牛、ヤギ、ラマ、アルパカを放牧している牧場もあります。



高原の牧場が多いのが岩手の特徴です。遠野の荒川高原牧場や安比高原牧場などは放牧する馬が植生を食べるので草原が林にならず維持されてきました。

イヌワシは絶滅危惧種の猛禽類で、県庁所在地で営巣地があるのは盛岡だけです。イヌワシは牧野のような草原で狩りをするため、古代からの馬の育成がイヌワシの生存に貢献してきた、すなわち日本列島で人とイヌワシは共生してきたと考えられています。これが自然環境と動物と私たちとのワンヘルスです。一方で、野鳥から鶏が感染する高病原性鳥インフルエンザもワンヘルスの一例です。

## ＊クマとの共生

多くの動物たちが暮らす岩手の豊かな自然。それゆえクマが大量出没し、今も続いています。

クマは大きなもので100キロ。植物、どんぐり、山菜を好み、肉食ではありませんが、農作物を荒らし、人に危害を加えれば、有害獣として駆除されます。

クマはアンブレラ種と呼ばれ、クマという傘のもとにいろいろな生き物が生きています。

アジアのツキノワグマは世界的にみると絶滅危惧種ですが、クマの被害は無視できません。

2022年、開運橋、上田、明治橋、本宮にクマが出没。クマが人目を避けて街の中に出没するという昔は考えられなかったことが、実際に起きています。

クマの捕獲数は昭和から平成は200頭前後だったのが、令和５年は859頭に急増し、出没数も平成の中頃までは300件～500件だったのが、令和５年には5000件を超えてしまいました。

かつて2010年に明治橋のたもとの中州にクマが出現しました。2011年には不来方橋のあたりに現れました。雫石川上流、御所湖、つなぎ温泉には毎年クマが出没するので、河畔林を使って街の中に移動するのだろうと思います。同じ年に前九年公園でクマの糞を発見しました。北上川を遡ると三馬橋には鬱蒼とした森があり、そこから来たようです。

動物公園にも何度かクマが入り込みました。クマは人が近づくと逃げる習性があるのに、畑の果樹や残飯はクマにとって安定的な食糧なのかもしれません。

最近は人を怖がらないクマが増えました。30年ほど前は捕獲したクマが人を怖がって威嚇してきたのに、最近のクマはぼーっと眺めているだけです。

動物公園に現れた
野生のクマ

## ＊日本人の自然観と盛岡の子どもたち

「八百万（やおよろず）の神」という日本人固有の自然観があります。宮沢賢治の「なめとこ山の熊」は自然とせめぎ合いながらも共生していく人の暮らし方、自然の中の緊張感、感謝、畏敬の気持ちが大切であることを教えています。

盛岡の子どもたちは、岩手山と北上川を眺めて育ち、そこで自然観が養われています。

自然の中で物質循環、エネルギー循環が行われており、言い換えれば命の循環でもあります。

これを意識することがワンヘルスの基盤となり、生物多様性につながっていきます。

ZOOMOの人気者
クマの「リオ」

## 令和7年度 まちづくり懇談会の開催

来年度も市と市町連の共催による「まちづくり懇談会」が開催されます。「まちづくり懇談会」は市内全30地区で概ね２年に１度開催されるもので、懇談テーマは今後各地域から提案され決定します。地域の皆様には積極的なご参加をお願いします。

| No. | 地区名 | 会　場 | 開催日時 | No. | 地区名 | 会　場 | 開催日時 | No. | 地区名 | 会　場 | 開催日時 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中　野 | 中野地区活動センター | 5月26日(月)18:30 | 6 | 杜　陵 | 杜陵老人福祉センター | 7月17日(木)14:00 | 11 | 本　宮 | 本宮地区活動センター | 9月2日(火)14:00 |
| 2 | 上米内 | 上米内老人福祉センター | 5月27日(火)18:30 | 7 | 加賀野 | 加賀野老人福祉センター | 7月22日(火)14:00 | 12 | 乙　部 | 乙部農業構造改善センター | 10月7日(火)15:00 |
| 3 | 東厨川 | 厨川老人福祉センター | 7月3日(木)14:00 | 8 | 玉山・藪川 | 玉山公民館 | 7月25日(金)18:30 | 13 | 見　前 | 見前地区公民館 | 10月21日(火)17:00 |
| 4 | 仙　北 | 仙北地区活動センター | 7月10日(木)18:30 | 9 | 飯　岡 | 飯岡農業構造改善センター | 8月19日(火)14:00 | 14 | 城　南 | 山王老人福祉センター | 11月18日(火)14:00 |
| 5 | 山　岸 | 山岸地区活動センター | 7月14日(月)14:00 | 10 | 好　摩 | 好摩地区公民館 | 8月22日(金)18:30 | 15 | 太　田 | 太田地区活動センター | 11月19日(水)18:30 |

# 研修会シリーズ

## 教育福祉講演会

昨年11月13日、総合福祉センター講堂において教育福祉講演会を開催しました。当日は約100名が参加し、熱心に聴講いただきました。

2012年に「こども食堂」という呼び名が使われ始めてから10年以上が経ち、その取組みは全国に広がっています。地域コミュニティの場としても貢献している「こども食堂」について学ぶ有意義な機会となりました。

教育振興部会長　増田　文男
福祉厚生部会長　泉澤　　力

## こども食堂が果たす役割と課題について

講師：盛岡市子ども青少年課長　杉田 博信 氏

「こども食堂」は貧困家庭や子どもだけに限定したものではなく「子ども一人でも安心してこられる無料または低額の食堂」として生まれました。

盛岡市のこども食堂は平成27年度に初めて開設されてから年々増え、令和６年度には39か所になりました。盛岡市では、こども食堂を運営する団体を補助する形で支援が始まり、現在は「盛岡市地域こどもの生活支援強化事業補助金」として、運営に係る人件費、食材費等に対して補助を行っています。今年度は、1,500万円の予算を確保し、こども食堂を運営する25団体を支援しています。

こども食堂支援の最大の目的は、地域のこどもの見守り強化です。こども食堂を通じた子どもの居場所づくりにより、さまざまな悩みや困難を抱える子どもや家庭を早期に発見し、こども家庭センターなどの相談機関による支援につなげていきます。

盛岡市では現在21学校区に39か所のこども食堂が開催されていますが、今後すべての小学校区（41学区）での開催を目指しています。子どもが歩いて立ち寄ることができ、地域の大人とつながり、地域で子どもを見守る場所を創るために、「地域住民が集まるこども食堂」、「学習支援の居場所づくり」などが考えられます。町内会、父母会、会社など運営する団体の形態は問いません。地域によってさまざまな方法での「居場所づくり」を考えていきたいと思います。

## 運営団体からの情報提供

### みらいこども食堂
（NPO法人 みらいこどもプロジェクト　代表 渡邉さん）

東日本大震災の復興支援を目的に立ち上げたNPOで、３年前から「こども食堂」に取り組んでいます。

令和３年に第１回のこども食堂を開催しました。クリスマスパーティーをしようと声掛けしましたが、親御さん含めて27名だけ。そこでもっと広げようと市のHPに載せてもらうなどして１年目の平均は約40名となりました。

食べるだけでなく食育につなげようと春には田植え、秋には稲刈りを体験させ、収穫したコメを脱穀し、新米を食べてもらうと、保護者の皆さんもとても喜んでくれました。

先月は116名参加し、今度の日曜日には97名の申込みがあります。12月のクリスマス会は入りきれないので八幡宮参集殿を借りる予定です。

予算不足を補うためSDGs弁当を作ることにしました。スーパー、コンビニなどで余った食材を安価で買い取り、安くなった分をこども食堂に寄付しています。

### わらしゃん丼
（任意団体 わらしゃん丼　カーネルさん）

2016年３月から毎月第四土曜日に開催し、今月で105回を数えます。

週末休みの近所のデイサービス施設を会場に、参加者は０歳から最高齢で93歳まで幅広く、滝沢市など市外からもいらっしゃいます。申込み予約は不要でPRはクチコミだけ。利用料金は決めず募金箱を置いてお気持ちをいただいています。１回で２千円前後の入金、運営費の不足分は市からの助成金で賄っています。

子どもたちが自分で悩みを解決できる環境づくりができればと思い、相談というより話を聞いてあげています。ずっと子どもたちと関わっていますが、問題解消にはエネルギーが必要な体力勝負の長期戦です。

サポーターは志を持った人、地元の人、地域外からの人などまちの人財に助けられています。これまでの参加者実人数は400人を超えています。これからも仲間が増えることを期待しています。

### 子どもの居場所ネットワークいわて
（認定NPO法人 インクルいわて　川守田さん）

「岩手県子どもの居場所ネットワーク形成支援事業」を受託し、コーディネーターとして子どもの居場所づくりのお手伝いをしています。

2018年度岩手県子どもの生活実態調査では、収入に関わらず約半数の子どもがこども食堂の利用を望んでおり、そのうち８割が住んでいる学区内、歩いて行ける範囲内での利用を希望しています。

2024年11月現在、81団体が岩手県内95か所で活動しております。

2023年の調査によれば、こども食堂数は全国の公立中学校数とほぼ同じ数になりました。岩手県は個所数で全国29位、充足率で31位ですが、増加率は５位となっています。

地域住民が子育て環境や社会課題の現状や背景を知るきっかけとなり、「大人」も「子ども」も「地域」も育つ持続可能な地域力が促進されます。町内会として子どもの居場所づくりへのご協力をお願いします。

市町連広報
あのまち このまち
令和7年2月号
No.115

## がんばるぞ!!オールドタウン松園

### 松園二丁目町内会(松園地区)

昭和47年、松園二丁目と三丁目に建売住宅200世帯が入居し、その年度に松園団地自治会が設立されました。そして、4年後の昭和51年11月には、松園一丁目、二丁目、三丁目、東松園一丁目、西松園の5つの町内会に分割独立することになり、現在も松園二丁目町内会として活動をしています。

町内会の範囲は、南端は臼井循環器呼吸器内科医院や盛岡タクシー、北端は北日本銀行や東北銀行の松園支店、松園郵便局を境とし、東端は4車線道路、西端は松園小学校前のバス路線が境になっています。世帯数は、473世帯をピークに現在は430世帯まで減少しています。

町内会大運動会のひとコマ

町内会行事としては、研修旅行、松園夏まつりへの参加、大運動会、敬老の集い、新成人へのお祝い、麻雀大会、新年交賀会、側溝の泥上げや公園等の清掃、スノーバスター活動などを行っています。できるだけたくさんの会員の方々が参加できるよう工夫はしていますが、年々参加者が減少してるのが悩みの種です。昨年から、民生委員さんの働きかけをきっかけに、月1回ではありますが「おしゃべりサロン」と称して、集会所を開放し、お茶を飲みながらおしゃべりをする会を行っています。そのサロンの中で、松園地域包括支援センターの支援を受けてシルバーリハビリ体操などにも取り組んでいます。毎回15人前後の参加ですが、ぜひ続けてほしいとの声が多く、開催日等も含め広めていきたいと思っております。 (工藤 健一 記)

## 世代間の交流を未来に

### 大館町町内会(西厨川地区)

わが大館町は、かつては田畑に囲まれていましたが、今では宅地化が進み900世帯以上になりました。現在も増加傾向が続いています。

コロナ禍でできなかったさまざまな行事も、一昨年のコロナ明けから復活しました。

大館町には2000年に県史跡となった「大館町遺跡」があります。県内においては最大級の規模で縄文中期の約1000年間にわたり営まれた集落があり、竪穴式住居跡は大量の土器・石器類が出土しています。当初は田んぼの中で行われていた「野焼き祭り」は大館町公園に場所を移し、現在は遺跡公園で行われ34年になります。

子供会とその保護者や町内外の方とともに土器づくりをします。窯作り・火入れを行い、野焼きをして焼きあがった土器はどれも個性あふれる素晴らしい作品です。これらは一週間ほど西部公民館のホールに展示させていただいております。

お正月には子どもたちと保護者、そして老人クラブの方々

と三色の餅づくりやゲームを楽しんでいます。また、夏祭り、フリーマーケット、資源回収、公園の草取り、花植えなど、老人クラブと協力しながら世代間交流を図っています。

さらに、シルバーリハビリ体操やふれあいサロンは高齢者の方々のふれあいの場として活気に溢れ賑わっています。

若い世代の担い手の問題、築50年ほどとなる大館町公民館の建て替えなど課題はありますが、これからの明るい未来のために町内の皆様と取り組んでいきたいと思います。 (阿部 明徳 記)

## 半世紀近く続く大運動会

### 松尾町町内会(城南地区)

少子高齢化が進む松尾町ではお年寄りと子どもたちがふれ合える行事を取り組んでいます。中でも大きな行事が秋の大運動会です。青少年部が中心になって参加者が楽しめる競技を企画し、お楽しみ抽選番号付きのプログラムを事前に全戸配布します。

景品は女性部が担当し、リンゴや梨、里芋、玉ねぎなど家庭で役立つもの、もちろん子どもたちが大好きなお菓子類やカップ麺なども全員分用意します。

この運動会は松尾町が誕生して12年後の昭和50年から続く伝統行事です。コロナ禍で2年間中止しましたが去年から復活し今年は47回目です。9月29日の日曜日、大慈寺小学校の体育館をお借りして賑やかに開催しました。参加したのは90歳近いお年寄りから幼児まで約70人。競技は子どもたちの徒競走に始まり、幼児とお年寄りが出場したカード合わせなど和やかに行われました。また、小学生とお年寄りが行う“爆弾を落とすな”という競技では、小学生が両手にビール瓶を握りしめ、瓶の口に乗ったゴルフボールを落とさないようゴールし、拍手喝采を浴びていました。

お年寄りと小学生の“爆弾を落とすな”

大運動会は松尾町の先人が、みんなで仲良く、楽しく暮らせる松尾町を、と始めたものです。これからも先人の思いを大切に松尾町大運動会を続けていきたいと思っています。 (福士 信幸 記)